

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年10月24日
【事業年度】	第35期（自 平成25年8月1日 至 平成26年7月31日）
【会社名】	サムコ 株式会社
【英訳名】	SAMCO INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 辻 理
【本店の所在の場所】	京都市伏見区竹田藁屋町36番地
【電話番号】	075（621）7841（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 管理統括部長 竹之内 聡一郎
【最寄りの連絡場所】	京都市伏見区竹田藁屋町36番地
【電話番号】	075（621）7841（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 管理統括部長 竹之内 聡一郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成22年7月	平成23年7月	平成24年7月	平成25年7月	平成26年7月
売上高 (千円)	4,277,810	5,253,315	3,828,953	4,201,393	4,233,049
経常利益 (千円)	412,403	742,349	321,922	564,245	292,436
当期純利益 (千円)	247,626	430,175	171,502	354,503	190,326
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	1,213,787	1,213,787	1,213,787	1,213,787	1,213,787
発行済株式総数 (株)	5,869,068	5,869,068	7,042,881	7,042,881	7,042,881
純資産額 (千円)	6,138,512	6,485,343	6,561,659	6,838,061	7,007,017
総資産額 (千円)	8,524,782	9,005,019	8,655,185	8,990,979	9,066,662
1株当たり純資産額 (円)	1,046.84	921.68	932.63	972.02	996.15
1株当たり配当額 (円)	15.00	15.00	12.50	18.00	18.00
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	42.22	61.13	24.37	50.38	27.05
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.0	72.0	75.8	76.1	77.3
自己資本利益率 (%)	4.1	6.8	2.6	5.3	2.7
株価収益率 (倍)	36.9	17.7	23.8	17.1	38.0
配当性向 (%)	35.5	20.4	51.3	35.7	66.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	418,571	224,101	461,492	64,255	185,239
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	247,298	132,463	104,464	47,091	300,494
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	85,019	131,300	131,810	133,666	174,745
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,650,007	1,551,055	1,767,712	1,865,052	1,247,333
従業員数 (人)	143	149	153	161	166
(ほか、平均臨時雇用者数)	(3)	(3)	(3)	(4)	(3)

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、( )外数で記載しております。

5. 第32期の株価収益率については、平成23年7月31日現在の提出会社の株主に対し、平成23年8月1日付をもって普通株式1株を1.2株に株式分割をいたしましたので、平成23年7月31日の株式分割権利後の株価を権利前前の株価に換算して算出しております。

6. 第33期より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

平成23年8月1日付で普通株式1株につき1.2株の株式分割を行いました。第33期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

7. 第34期の1株当たり配当額には、東証二部上場記念配当3.00円を含んでおります。

8. 第35期の1株当たり配当額には、東証一部上場記念配当3.00円を含んでおります。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和54年9月	半導体製造装置の製造及び販売を目的として株式会社サムコインターナショナル研究所を設立
昭和55年7月	国産初のプラズマCVD (Chemical Vapor Deposition) 装置の開発、販売を開始
昭和59年7月	東京都品川区に東京出張所 (現東京支店) を開設
昭和60年6月	京都市伏見区竹田田中宮町33番地 (現藁屋町36番地) に本社を移転
昭和60年6月	米国マーチンズツルメンツ社 (現ノードソン社) の製品の販売を開始
昭和62年2月	米国カリフォルニア州にオプトフィルムズ研究所を開設
平成2年11月	液体ソースによる高速成膜用CVD装置の開発、販売を開始
平成3年3月	京都市伏見区に研究開発センターを開設
平成5年2月	茨城県土浦市につくば出張所 (現つくば営業所) を開設
平成5年9月	愛知県愛知郡長久手町に東海営業所 (現東海支店) を開設
平成6年2月	米国シンメトリックス社の技術を用いた「強誘電体成膜装置」の製造、販売を開始
平成7年7月	薄膜技術を使った特定フロン無公害化技術の基本技術を開発
平成7年12月	小型、汎用プラズマエッチング装置RIE-10NRの開発、販売を開始
平成8年12月	高密度プラズマICPエッチング装置RIE-101iPの開発、販売を開始
平成9年11月	キリンビール株式会社と共同で、プラスチックボトルにDLC (ダイヤモンド・ライク・カーボン) 膜を形成する技術を開発
平成9年11月	小型高密度プラズマICPエッチング装置RIE-200iPの開発、販売を開始
平成10年3月	広島市安佐南区に広島出張所を開設 (平成26年9月に閉鎖)
平成10年12月	小型、汎用プラズマCVD装置PD-220の開発、販売を開始
平成11年7月	サムコエンジニアリング株式会社より、サービス部門の営業を譲受け
平成12年1月	英国ケンブリッジ大学内に研究所を開設
平成13年5月	日本証券業協会に株式を店頭上場
平成13年7月	台湾新竹市に台湾事務所を開設 (平成21年1月に閉鎖)
平成13年10月	仙台市青葉区に仙台出張所 (現仙台営業所) を開設
平成14年7月	生産技術研究棟 (京都市伏見区) の改修工事完了
平成15年11月	量産型プラズマCVD装置PD-220LCの開発、販売を開始
平成15年12月	(独)ロバート・ボッシュ社よりシリコンの高速ディープエッチング技術を導入
平成16年11月	中国上海市に上海事務所を開設
平成16年12月	株式会社サムコインターナショナル研究所からサムコ 株式会社へ社名を変更
平成16年12月	株式売買単位を1,000株から100株に変更
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成17年2月	生産機事業部を新設
平成17年5月	汎用研究試作用プラズマCVD装置PD-2203L (クラスターラボ) の開発、販売を開始
平成17年9月	英国ケンブリッジ大学との共同開発「強誘電体ナノチューブの量産技術」を英企業に技術供与
平成17年12月	電子基板洗浄用小型バッチ式プラズマ処理装置PC-300の開発、販売を開始
平成18年3月	製品サービスセンターを新設
平成18年5月	MEMS用高速エッチング装置RIE-800iPBの開発、販売を開始
平成18年9月	中国清華大学とナノ加工技術の共同研究で調印
平成19年11月	半導体レーザー用エッチング装置RIE-140iP/iPCの開発、販売を開始
平成20年3月	京都市伏見区に第二研究開発棟を開設
平成20年5月	窒化ガリウム膜形成用量産MOCVD装置MCV-2018の開発、販売を開始
平成20年10月	台湾に保守サービスのための現地法人「莎姆克股份有限公司」を設立
平成20年11月	窒化ガリウムウエハー専用エッチング装置RIE-330iP/iPCの開発、販売を開始
平成21年1月	「莎姆克股份有限公司」が営業を開始
平成21年10月	MEMS研究開発用高速エッチング装置RIE-400iPBの開発、販売を開始
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場 (現東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)) に上場
平成22年7月	TSV用量産型プラズマCVD装置PD-330STCの開発、販売を開始
平成22年7月	LED用量産型プラズマCVD装置PD-5400の開発、販売を開始
平成22年8月	米国ノースカロライナ州に米国東部事務所を開設 (平成26年5月にニューヨーク州へ移転)
平成22年9月	中国北京市に北京事務所を開設
平成23年12月	アジア市場向けエッチング装置RIE-331 PCの開発、販売を開始
平成24年5月	ベトナムホーチミン市にベトナムサービスオフィスを開設
平成24年11月	SiCパワーデバイス向けドライエッチング装置RIE-600 Pの開発、販売を開始
平成25年7月	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード) から市場第二部へ市場変更
平成25年10月	SiCパワーデバイス向け本格量産用ドライエッチング装置RIE-600 PCの開発、販売を開始
平成25年11月	MEMS向け本格量産用ドライエッチング装置RIE-800 PBCの開発、販売を開始
平成26年1月	東京証券取引所市場第二部から同第一部へ指定替え
平成26年3月	米国Valence Process Equipment, Inc. とMOCVD装置の販売代理店契約を締結
平成26年5月	リヒテンシュタイン公国UCP Processing Ltd. の株式90%を取得し子会社化 (samco-ucp AGに社名変更)
平成26年9月	福岡市中央区に福岡営業所を開設

### 3【事業の内容】

当社は、半導体等電子部品製造装置メーカーで、薄膜形成・加工装置の製造及び販売を事業としております。

当社の製品は、薄膜を形成するCVD (Chemical Vapor Deposition = 化学的気相成長) 装置、薄膜を微細加工するエッチング装置、基板表面などをクリーニングする洗浄装置、その他装置等に区分されます。

(1) 各々の装置分類毎の概要は次のとおりであります。

装置区分	概 要
CVD装置	反応性の気体を基板上に供給し、化学反応によって薄膜を形成する装置で、一般に半導体、電子部品製造のための半導体膜、絶縁膜、金属膜などを形成するために使われます。当社が開発したLS (Liquid Source) - CVD装置では、引火爆発性のあるガスを使用せず安全性に優れた液体原料を用いて、低温で均一性に優れた薄膜を高速で形成することが可能であります。
エッチング装置	各種半導体基板上の半導体薄膜、絶縁膜をはじめ微細加工が必要な材料をドライ加工する装置で、反応性の気体をプラズマ分解し、目的物と反応させて蝕刻いたします。当社独自のトルネードICP (Inductively Coupled Plasma = 高密度プラズマ) を利用するエッチング装置では、高速で高精度の微細加工が可能であります。
洗浄装置	実装基板や各種半導体基板などを溶液を用いずドライ洗浄する装置で、減圧下で反応性の気体をプラズマ放電させて処理する装置や紫外線と高濃度オゾンの併用で処理する装置などがあります。当社のドライ洗浄装置は、ウエット洗浄では難しい超精密洗浄を高効率で行うことが可能であります。
その他装置	上記装置には含まれない特別な装置であります。
その他	部品、保守メンテナンスなどであります。

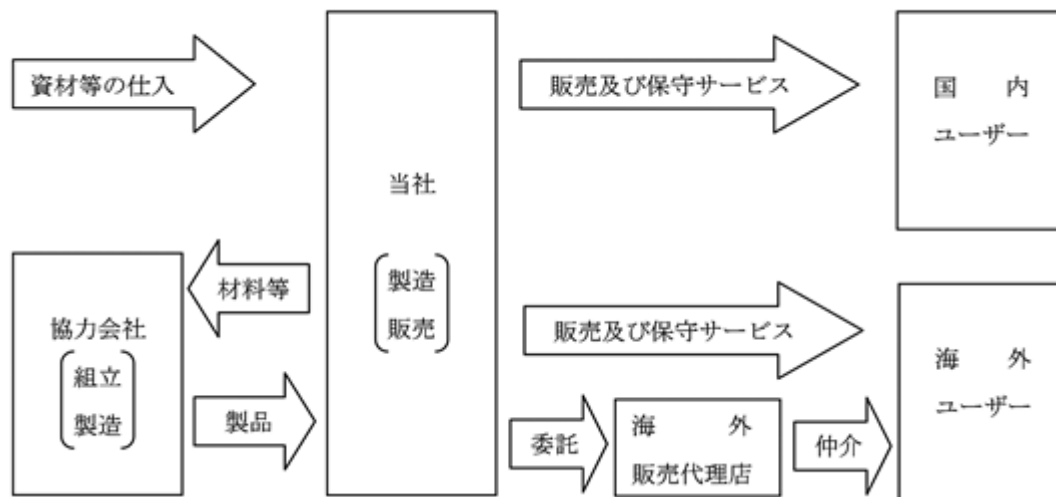
(2) 当社事業の用途別区分は次のとおりであります。

用 途	概 要
オプトエレクトロニクス分野	主に化合物半導体から作られるLED (Light Emitting Diode = 発光ダイオード) やLD (Laser Diode = 半導体レーザー) などの発光デバイスのほか、電気信号を光信号に変換したり、逆に光信号を電気信号に変換したりする光通信デバイスなどに関する分野であります。
電子部品分野	パワーデバイス・高周波デバイス・各種センサー・MEMS (Micro Electro Mechanical Systems = 微小電気機械素子) ・SAW (Surface Acoustic Wave = 弾性表面波) デバイス・水晶デバイス・磁気ヘッドなどに関する分野であります。
シリコン分野	三次元LSI (Large Scale Integrated circuit) ・三次元パッケージやウェハー欠陥解析などに関する分野であります。
実装・表面処理分野	ICのパッケージングの洗浄や表面処理に関する分野であります。高密度実装に対応するために基板はますます小型化、薄型化、多ピン化しており、高度な洗浄機能が要求されております。
表示デバイス分野	有機EL (Electro Luminescence)、LCD (Liquid Crystal Display = 液晶表示素子)、PDP (Plasma Display Panel)、などに関する分野であります。
その他分野	上記以外の分野であります。
部品・メンテナンス	部品・メンテナンスに関する分野であります。

当社の装置の製造に関しては、自社の設計企画により協力会社に製造を委託し、製品出荷の前に独自のプログラムソフトを入力し、仕様検査・出荷検査を経て販売しております。販売に関しては営業所を通じて行うとともに、海外については一部現地販売代理店に委託しております。

当社は、半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであり、以上述べた関係を図示すると次のとおりであります。

(業態系統図)



(注) 台湾を中心とする保守サービス業務は現地法人「莎姆克股份有限公司」へ委託しております。

#### 4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

(平成26年7月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
166(3)	37.1	10.1	5,710,630

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含むほか、嘱託を含んでおります。)であり、臨時雇用数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 当社は半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるためセグメント毎の記載はしていません。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、消費税率が引き上げられた4月以降、駆け込み需要の反動から一時的に減速したものの、企業収益の良化による投資環境・雇用環境の改善が下支えとなり、緩やかな回復を続けました。世界経済では、米国経済は堅調に推移し、新興国市場も緩やかな成長傾向にあるものの、欧州における金融債務問題の再燃懸念、中国経済の減速、ウクライナ問題等による政情不安により、先行き不透明な状況が続きました。

当社を取り巻く半導体等電子部品業界におきましては、スマートフォンやタブレット型端末の世界的な需要拡大を背景にした設備投資に加え、当社の関わる化合物半導体を用いた新たなモバイル機器や車載センサーなど先端分野での研究開発投資が、幅広い企業で進みつつあります。また、アジア市場での生産設備投資につきましては、依然として慎重な姿勢が強いものの、商談や引き合い等の動きは徐々に回復しており、下期の受注環境は好転の兆しが見られました。

このような状況の下、前期国内売上高を牽引した電子部品分野での生産機が減少した影響から、国内売上高は2,668百万円（前期比18.8%減）となりました。海外市場は台湾、韓国を中心にアジア市場が輸出を牽引し、北米、欧州においても前期比で大幅に販売を伸ばしたことから、輸出販売高は1,564百万円（前期比71.0%増）となりました。

平成26年3月には、MOCVD（有機金属気相成長）装置メーカーであるValence Process Equipment, Inc.と同社製品の日本及びアジア地域での販売代理店契約を締結いたしました。加えて、平成26年5月には、半導体精密洗浄装置の製造及び販売を事業としているUCP Processing Ltd.（以下「UCP社」）を子会社化するなど、売上高拡大を目的とした施策の推進に努めてまいりました。

以上のような活動をしてまいりました結果、当事業年度における業績は、売上高が4,233百万円（前期比0.8%増）となりました。人材採用や新規事業に対する先行投資により販管費が増加したことから、営業利益は256百万円（前期比25.1%減）となりました。また、円安の進行による為替差益が45百万円（前期は244百万円）発生したことから、経常利益は292百万円（前期比48.2%減）、当期純利益は190百万円（前期比46.3%減）となりました。

主な品目別の売上高は、次のとおりであります。なお、当社は半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるためセグメント毎の記載はしていません。

#### （CVD装置）

オプトエレクトロニクス分野のレーザーやLED用途での各種絶縁膜、保護膜形成用途での販売があったものの、生産機の販売環境は厳しく、売上高は529百万円（前期比38.2%減）となりました。

#### （エッチング装置）

オプトエレクトロニクス分野の高輝度LED用途の大型機や、電子部品分野のパワーデバイス、MEMS用途向け研究開発機の販売が売上に寄与し、売上高は2,669百万円（前期比3.3%増）となりました。

#### （洗浄装置）

半導体パッケージの表面洗浄やワイヤーボンディング前の電極洗浄等での幅広い需要があり、売上高は390百万円（前期比91.2%増）となりました。

#### （その他装置）

当事業年度の売上高はありません。（前期の売上高は7百万円）

#### （その他）

既存装置のメンテナンスや部品販売、装置の移設・改造などで、売上高は644百万円（前期比17.1%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ617百万円減少し、1,247百万円（前期比33.1%減）となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は以下の通りであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は185百万円（前年同期に得られた資金64百万円）となりました。これは主に税引前当期純利益が292百万円、仕入債務の増加94百万円がプラスに寄与した一方、売上債権の増加が302百万円、法人税等の支払が290百万円であったことによるものです。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は300百万円（前期比538.1%増）となりました。その主な内容は、定期預金の預入による支出が2,789百万円、有形固定資産の取得による支出が129百万円、貸付けによる支出が133百万円に対して、定期預金の払戻による収入が2,776百万円であったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は174百万円(前期比30.7%増)となりました。これは主に配当金の支払が126百万円であったことによるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

当社は、半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるため、生産、受注及び販売の状況につきましては、当社の品目別に記載しております。

### (1) 生産実績

当事業年度の生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月 31日)	前年同期比(%)
CVD装置(千円)	612,931	87.6
エッチング装置(千円)	2,786,508	114.2
洗浄装置(千円)	420,187	167.1
その他装置(千円)	-	-
その他(千円)	676,372	119.2
合計(千円)	4,495,999	113.6

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当事業年度の受注実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
CVD装置	512,195	76.1	150,750	89.9
エッチング装置	2,724,412	96.9	783,190	107.6
洗浄装置	354,570	147.7	14,300	28.6
その他装置	-	-	-	-
その他	643,982	115.7	63,833	99.1
合計	4,235,161	99.0	1,012,073	100.2

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (3) 販売実績

当事業年度の販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)	前年同期比(%)
CVD装置(千円)	529,045	61.8
エッチング装置(千円)	2,669,196	103.3
洗浄装置(千円)	390,220	191.2
その他装置(千円)	-	-
その他(千円)	644,586	117.1
合計(千円)	4,233,049	100.8

(注) 1. 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)		当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
(株)金沢村田製作所	686,115	16.3	64,254	1.5

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 3 【対処すべき課題】

当社は、化合物半導体向けの製造装置を主力製品とし、研究開発機市場と生産機市場それぞれで事業を展開しております。研究開発型企業として成長してきた当社が持つ高度な技術力、強みを維持すると同時に、その強みを生産機市場で活かし事業規模の拡大を図っております。また、経済のグローバル化は着実に進んでおり、当社における海外市場の重要性も高まっております。加えて、当社のコアテクノロジーである「薄膜技術」は医療、バイオ、環境といったエネルギー及びライフサイエンス分野に活かすことが可能であり、中期的には当社の新規事業、新分野として成長させることを目指しております。「海外市場の開拓」と「新規事業の創造と収益化」をキーワードとした成長戦略の実現のため、平成26年8月より新中期経営計画をスタートさせ、以下を主要課題として取り組んでまいります。

## 海外市場の更なる開拓

当社は、海外売上高の拡大を目的として、積極的に海外拠点網の拡充、現地人材の採用を進めております。また、欧州での販売・サービス拠点とすべく、半導体精密洗浄装置の製造及び販売を事業としているUCP社を子会社化し、欧州への販売・サービス体制を強化いたしました。アジアや北米、欧州での販売体制の強化を図り、中期的には海外売上高比率50%の達成を目指しております。

## 新規事業の創造と収益化

現在当社は、CVD装置、エッチング装置、洗浄装置が3大製品として事業の柱となっておりますが、今後も成長を維持し、更に加速するためには、これらの製品に次ぐ「第4の柱」となる製品を確立する必要があると考えております。また、当社のコアテクノロジーである「薄膜技術」は、IT・通信分野にとどまらず、今後成長が期待できるバイオ・医療・環境の分野への応用が可能であります。

本社研究開発センター、米国オプトフィルムズ研究所、英国ケンブリッジ大学内研究所との3極体制で研究開発を行うと共に、国内外の大学や各種クラスターとの共同研究を更に進めて、これらの研究の中から、薄膜事業に関連する新事業、新分野をいち早く立ち上げ、当社の中期的な事業拡大に寄与する事業に成長させたいと考えております。

## 新製品の開発

当社の技術的優位性を活かした化合物半導体が用いられるLEDやLDのオプトエレクトロニクス分野、高性能化が進む電子部品分野が、今後とも当社の中心となる産業分野であると考えております。その中で、LED、LD、パワーデバイス、MEMS、三次元LSIのTSV等の最先端分野において取引先ニーズに対応できる新製品の開発、製品のラインナップ化を一層強化すると共に、既存装置とのセット販売により、製造プロセスにおけるワンストップソリューション(一貫製造ライン)を提供してまいります。



#### 経営管理体制の強化

今後、海外事業を拡大していくにあたり人材育成・強化が課題であると認識しております。中期的な視点に基づいたグローバル人材を育成してまいります。また、企業の社会的責任を積極的かつ十分に果たしていくためには、コンプライアンス体制の更なる充実・強化が重要であると認識しております。内部統制を維持強化しグローバルスタンダードに耐えうる経営管理体制を確立いたします。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末において当社が判断したものであります。

##### (1) 設備投資動向の影響について

当社の外部環境要因として、半導体製造業界の設備投資動向の影響があります。当社が事業を展開する化合物半導体市場は、LED、半導体レーザー用途のオプトエレクトロニクス分野や、各種センサー、MEMS、パワーデバイス用途の電子部品分野が中心であります。シリコン半導体の分野で急激な市場の落ち込み（所謂シリコンサイクル）が起きた場合には、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 特定地域、特定顧客への販売依存度について

海外市場での拡販は当社の経営課題のひとつであることから、近年の台湾や中国のように海外の特定地域、企業への販売依存度が高まる可能性があります。特定地域、特定顧客の設備投資が低迷し装置需要が減少した場合あるいは政治的リスクを含めカントリーリスクが拡大した場合には、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 新製品開発リスクについて

当社の装置は、薄膜を形成するCVD装置、薄膜を微細加工するエッチング装置、基板表面などをクリーニングする洗浄装置が中心であり、市場としては研究開発用途に加え、生産用途向けにも注力しております。微細化・高精度化・高速化が進展する中で、他社製品に比し優位性ある新製品をタイムリーに適正な価格で市場に投入できない場合、あるいは市場の技術トレンドや製品仕様が当社の開発内容と異なる方向に向かった場合、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 資材等の調達に関するリスク

当社の生産活動には、原材料、部品等が適時、適切に納入されることが必要ですが、原材料、部品等の一部については、その特殊性から調達先が限定されているものや調達先の代替が困難なものがあります。当社では、複数社購買を実施するなど安定的な調達を図っておりますが、調達先の災害や事故、仕入価格の高騰等で、部品の安定的な調達が確保できない可能性があります。その場合は、製品の出荷遅延による機会損失等が発生し、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 人材の確保と育成について

当社の将来の成長を可能とする高度なスキルを有する管理者、技術者、営業担当者、メンテナンス・サービス要員の確保と育成は極めて重要であり、社員の教育を体系的・継続的に実施する必要がありますが、計画通りに進まない場合には、当社の将来の成長と業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (6) 製造物責任について

当社が提供する製品は、厳しい品質管理のもとに設計・製造されておりますが、万一顧客に深刻な損失をもたらした場合には損失に対する責任を問われる可能性があります。さらに、これらの問題による当社の企業イメージの低下は、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (7) 知的財産権について

当社は、他社製品との差別化を図るため様々な技術やノウハウを開発しており、その技術やノウハウが第三者の特許権その他の知的財産権を侵害しないよう厳重に管理しております。しかし、既に多くの特許権その他の知的財産権が存在し、日々新しい特許権その他の知的財産権が次々と取得される中で、見解の相違等により第三者から特許権侵害等で提訴される可能性があります。また、当社の事業展開に必要な技術についてライセンスを取得できなかった場合には、当社の事業は悪影響を受ける可能性があります。

##### (8) 債権回収リスク

当社は顧客に関する信用リスクの管理強化策や軽減策を実施しておりますが、経済状況の急変により予想外の倒産や支払遅延が発生した場合には、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (9) 為替リスク

当社の海外取引の大部分は現状アジア向けで日本円建となっておりますが、欧米向けは米国ドル建であります。今後も海外取引を拡大する方針であり米国ドル建の取引が増加すれば為替予約を活用しても為替変動リスクを被る可能性があります。また、当社は外貨建資産(未予約の現預金等)も保有しております。そのため、円建資産に転換する場合だけでなく財務諸表作成のための換算においても為替変動の影響を受ける可能性があります。

##### (10) 情報漏洩

当社は事業上の重要情報や取引先等の秘密情報を厳格に管理しておりますが、予測できない事態によってこれらの情報が漏洩した場合、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

## (11) 災害による被害

当社は災害による影響を最小限にとどめるため必要とされる安全対策や事業の早期復旧のための対策を実施しておりますが、自然災害や事故等の不測の事態が発生した場合、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

当社が締結している主な契約は、次のとおりです。

相手方の名称	契約名	契約内容	契約期間
(独)ロバート・ボッシュ社	特許ライセンス契約	(独)ロバート・ボッシュ社より、マイクロマシンや各種センサーの加工に用いられるシリコンの高異方性ディープエッチングを高速に行うことを目的とする「ボッシュプロセス」と呼ばれるライセンスの供与を受ける契約	平成15年12月18日から平成30年8月19日まで

(注) (独)ロバート・ボッシュ社との契約は、平成23年3月3日の契約変更により、期限が当初の平成25年11月27日から平成30年8月19日に延長されました。

## 6【研究開発活動】

当社は、「薄膜技術で世界の産業科学に貢献する」ことを経営理念としており、「創造性を重視し、常に独創的な薄膜製造、加工技術を世界の市場に送る」「ユーザーニーズに対応した製品をタイムリーに提供する」ことを経営の基本方針としております。この目標達成のため、技術革新の著しい半導体等電子部品業界の基礎研究から応用研究まで、幅広い研究開発に取り組んでおります。

本社研究開発センターは、装置開発の活性化を目的とした複数のテーマ別にプロジェクトを運営しており、その都度メンバーの変更、他部門への出向等を積極的に行っており、主に、装置の改良、改善、営業支援のためのデモ実験等を行っております。また、米国オプトフィルムズ研究所では、新たな半導体材料に係る基礎研究を行っております。一方、社外との共同研究も積極的に実施しており、有望なテーマがあれば、大学等の研究機関と共同研究を行っております。なお、平成12年1月より英国ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所内にある当社英国ケンブリッジ大学内研究所に社員を常駐派遣し、酸化ケイ素に関する基礎研究を行っております。

当事業年度における研究開発活動の成果は、次のとおりであります。

- (1) SiCパワーデバイス向け本格量産用ドライエッチング装置「RIE-600 PC」の開発、販売を開始  
平成25年10月、車載機器や鉄道のみならず、電力インフラ、スマートグリッドなどの分野に一層拡大が期待される次世代パワーデバイスの一つである炭化ケイ素(SiC)用の本格量産用ドライエッチング装置の新製品「RIE-600 PC」の開発、販売を開始いたしました。

炭化ケイ素(SiC)はワイドバンドギャップ半導体として高耐圧、優れた耐熱特性を有しており、特に自動車や鉄道、産業機器のスイッチング素子向けの次世代パワーデバイスの材料として、需要の大きな伸びが見込まれておりますが、加工においては加工速度と加工形状の両立が難しい等の課題がありました。ドライエッチング装置「RIE-600 P」は、従来のトルネードコイルに改良を加えた新型トルネードコイルや下部電極昇降ユニット、大容量排気システムの採用により、高真空下で1kWの高周波を安定印加し、高速で均一性よく、幅広いプロセスウィンドウを実現いたしました。当装置は、SiCパワーデバイス製造工程におけるプレナー加工のみならず、微細なトレンチMOS構造やビアホール加工及びこれらのマスクに用いられる酸化ケイ素(SiO<sub>2</sub>)マスク加工に用いることができます。このほか、各種センサーの製作や医療分野への応用が拡大しているマイクロ流路などのMEMSプロセス向けの石英基板の高速、高精度エッチングにも対応することが可能であります。

当装置は、平成24年11月に業界に先駆けて市場投入したSiC加工専用の研究/セミ量産用のドライエッチング装置「RIE-600 P」に真空カセット室を加えた本格量産用装置であり、1カセットで6インチウエハーを最大25枚収納し、自動処理が可能であるため生産性が大幅に向上しております。SiCパワーデバイス製造工程におけるプレナー加工のみならず、微細なトレンチMOS構造やビアホール加工及びこれらのマスクに用いられる酸化ケイ素(SiO<sub>2</sub>)マスク加工に用いることができます。

- (2) MEMS向け本格量産用ドライエッチング装置「RIE-800 PBC」の開発、販売を開始  
平成25年11月、信頼性が高く評価されている高速シリコンディープエッチング装置の研究/セミ量産用「RIE-800 PB」に真空カセット室とアライメント室を加えた本格量産用装置であるドライエッチング装置「RIE-800 PBC」の開発、販売を開始いたしました。

当装置は、8インチウエハーまでに対応しており、エッチングレート50μm/min以上、均一性±3%以下を実現し、低スカロップ加工やSOI(Silicon on Insulator)基板加工のノッチフリープロセスが可能であります。量産用装置としてメンテナンス性に優れた設計になっており、反応室内部材の取り出しと交換を容易に行え、高周波電源やターボ分子ポンプの交換を安全に行えるようにしております。各種センサー類やインクジェットヘッドなど高速シリコンエッチングを用いるMEMSの応用領域は広がっており、TSV市場の本格的な立ち上がりや医療分野への展開により市場は急拡大が見込まれております。MEMS向け製品では、絶縁膜形成用プラズマCVD装置は研究開発専用装置から本格量産用装置まで既に取り揃えラインナップ化が完成していましたが、高速シリコンディープエッチング装置においても、このたびラインナップ化が完成することとなりました。

以上の結果、当事業年度の研究開発費は162百万円となっております。

なお、当社は半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載はしていません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たりましては、過去の実績や現在の状況に応じて合理的と考えられる方法に基づいて行っております。財務諸表に影響を与える見積りは、引当金や未払費用などではありますが、特殊な会計処理や大幅な見積りに依存する会計処理は行っておらず、見積り等の不確実性が業績数値に大きな影響を与える可能性は、軽微であります。

### (2) 財政状態の分析

#### (流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は、5,366百万円で前事業年度末に比べ250百万円減少いたしました。売上債権が302百万円、仕掛品が61百万円増加した一方、現金及び預金が604百万円減少したのが主な要因であります。

#### (固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は、3,700百万円で前事業年度末に比べ326百万円増加いたしました。投資有価証券が168百万円、子会社への長期貸付金が130百万円増加したのが主な要因であります。

#### (流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は、1,394百万円で前事業年度末に比べ112百万円減少いたしました。仕入高増加に伴い買掛金が94百万円増加した一方、未払法人税等が169百万円、未払消費税等が29百万円減少したのが主な要因であります。

#### (固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は、664百万円で前事業年度末に比べ19百万円増加いたしました。退職給付引当金が30百万円増加した一方、長期借入金が16百万円減少したのが主な要因であります。

#### (純資産)

当事業年度末における純資産の残高は、7,007百万円で前事業年度末に比べ168百万円増加いたしました。これは、その他有価証券評価差額金が106百万円、利益剰余金が63百万円増加したことなどによります。自己資本比率は77.3%と前事業年度末1.2ポイント上昇いたしました。

### (3) 経営成績の分析

当事業年度における売上高は、4,233百万円（前期比0.8%増）となりました。スマートフォンやタブレット型端末の世界的な需要拡大を背景にした設備投資に加え、当社の関わる化合物半導体を用いた新たなモバイル機器や車載センサーなど先端分野での研究開発投資が、幅広い企業で進みつつあります。また、アジア市場での生産設備投資につきましては、依然として慎重な姿勢が強いものの、商談や引き合い等の動きは徐々に回復しており、下期の受注環境は好転の兆しが見られました。その結果、国内売上高は2,668百万円（前期比18.8%減）となり、輸出版売高は1,564百万円（前期比71.0%増）となりました。用途別売上高では、オプトエレクトロニクス分野向けは高輝度LED、LD用途で販売を伸ばし1,979万円（前期比17.6%増）となりましたが、電子部品向けは生産機が減少した影響から675百万円（前期比51.4%減）となりました。売上高総利益率は、45.7%と前期の45.4%から0.3ポイント上昇しましたが、売上高経常利益率は6.9%と前期の13.4%から6.5ポイント低下いたしました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資金状況は、当事業年度末における現金及び現金同等物の残高が前期末に比べ617百万円減少し、1,247百万円（前期比33.1%減）となりました。キャッシュ・フローの状況につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

なお、直近5事業年度におけるキャッシュ・フロー指標の推移は、次のとおりであります。

	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
自己資本比率 (%)	72.0	72.0	75.8	76.1	77.3
時価ベースの自己資本比率 (%)	107.3	84.4	47.1	67.4	79.7
債務償還年数 (年)	2.4	4.2	2.0	13.9	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	40.2	23.4	50.9	8.0	-

(注) 1. 各指標は、下記の基準で算出しております。

- ・自己資本比率：自己資本 / 総資産
- ・時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産
- ・債務償還年数：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー
- ・インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。なお、第32期の期末株価終値につきましては、平成23年8月1日付をもって普通株式1株を1.2株に株式分割をいたしましたので、平成23年7月31日の株式分割権利落後の株価を権利落前の株価に換算して算出しております。

3. 第35期の債務償還年数及びインタレスト・カバレッジ・レシオは、営業キャッシュ・フローがマイナスであるため記載しておりません。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社の経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めております。消費税率が引き上げられた4月以降、駆け込み需要の反動から一時的に減速したものの、企業収益の良化による投資環境・雇用環境の改善が下支えとなり、緩やかな回復が続いているものの、世界経済では、米国経済は堅調に推移し、新興国市場も緩やかな成長傾向にあるものの、欧州における金融債務問題の再燃懸念、中国経済の減速、ウクライナ問題等による政情不安により、先行き不透明な状況であります。しかし、パワーデバイスやMEMS、LEDといった環境貢献型デバイスに対する研究開発、生産設備への投資は拡大の方向にあり、海外においてもアジアを中心とする新興国において当社の関わる化合物半導体市場の拡大が進んでおります。当社を取り巻く経営環境は大きく変化しており、「海外市場の開拓」と「新規事業の創造と収益化」に注力して事業を展開してまいります。具体的には、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題 及び 4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社で当事業年度に実施いたしました設備投資の総額は132百万円で、主にデモ実験用エッチング装置に60百万円、デモ実験用MOCVD装置に53百万円の設備投資を実施いたしました。

また、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

なお、当社は半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載はしていません。

#### 2【主要な設備の状況】

平成26年7月31日現在における主要な設備、投下資本並びに従業員の配置状況は、次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
		建物及び構築物	機械及び装置	土地		その他	合計	
				面積㎡	金額			
本社工場(生産技術研究棟、製品サービスセンター、本社拡充用地を含む) (京都市伏見区)	製造業務、販売業務及び統括業務	249,369	4,704	[ 2,490.9] 8,044.0	1,969,202	13,754	2,237,030	113(1)
研究開発センター (第二研究開発棟を含む) (京都市伏見区)	研究開発業務	65,044	24,771	1,749.0	561,634	28,812	680,262	19(-)

(注) 1. 金額は帳簿価額であります。

2. 上記中の[ ]書きは賃借中のものです。

3. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、( )外数で記載しております。

4. 本社工場には、管理業務及び販売業務にかかる設備を含んでおります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等(平成26年7月31日現在)

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等(平成26年7月31日現在)

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成26年7月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年10月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,042,881	7,042,881	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	7,042,881	7,042,881	-	-

(注) 当社株式は平成26年1月9日付で東京証券取引所市場第二部から東京証券取引所市場第一部指定銘柄に指定されております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年8月1日 (注)	1,173,813	7,042,881	-	1,213,787	-	1,629,587

(注) 株式分割(1:1.2)によるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

(平成26年7月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地方 公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	28	24	24	19	3	3,281	3,379	-
所有株式数 (単元)	-	10,450	1,586	10,479	2,335	83	45,093	70,026	40,281
所有株式数の 割合(%)	-	14.9	2.3	15.0	3.3	0.1	64.4	100	-

(注) 自己株式8,840株は「個人その他」に88単元及び「単元未満株式の状況」に40株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

(平成26年7月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
辻 理	滋賀県大津市	1,943	27.60
サムコエンジニアリング(株)	京都市伏見区竹田藁屋町64番地	920	13.07
サムコ従業員持株会	京都市伏見区竹田藁屋町36番地	210	2.99
辻 猛	兵庫県尼崎市	206	2.93
辻 一美	滋賀県大津市	201	2.86
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	129	1.84
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカ ウント	東京都中央区月島4-16-13	127	1.81
京都中央信用金庫	京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91	120	1.70
立田 利明	京都府宇治市	103	1.48
三菱UFJキャピタル(株)	東京都中央区日本橋1-7-17	102	1.46
計	-	4,066	57.73

(注) サムコエンジニアリング(株)は、当社代表取締役会長兼社長辻理の資産管理会社であります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成26年7月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 8,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,993,800	69,938	-
単元未満株式	普通株式 40,281	-	-
発行済株式総数	7,042,881	-	-
総株主の議決権	-	69,938	-

【自己株式等】

(平成26年7月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
サムコ 株式会社	京都市伏見区竹田 藁屋町36番地	8,800	-	8,800	0.12
計	-	8,800	-	8,800	0.12

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	844	928,064
当期間における取得自己株式	40	42,480

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年10月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	8,840	-	8,880	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成26年10月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。



### 3【配当政策】

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重点政策として位置付けております。経営体質の強化と研究開発のための設備投資等のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続する基本方針のもと余剰資金につきましては業績連動的な配当の考え方を合わせて取り入れております。

当社は、期末配当として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、期末配当については株主総会にて決定しております。

当事業年度の配当につきましては、当社の東京証券取引所市場第二部から第一部銘柄への指定にあたり、株主の皆様へ感謝の意を表すため、15円00銭の普通配当に加え、3円00銭の上場記念配当を実施し、1株当たり18円00銭の配当を実施することを決定いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は66.5%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、市場ニーズに応える技術・製品開発体制を強化し、更には、グローバル戦略の展開を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年1月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年10月24日 定時株主総会決議	126,612	18.00

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成22年7月	平成23年7月	平成24年7月	平成25年7月	平成26年7月
最高(円)	2,485	1,838 1,240	1,125	968	1,525
最低(円)	900	633 1,071	563	450	786

(注) 1. 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQ市場、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)、平成25年7月24日より東京証券取引所市場第二部、平成26年1月9日より東京証券取引所市場第一部におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

2. 印は、株式分割(平成23年8月1日付をもって1株を1.2株に分割)により権利落後の最高・最低株価を示しております。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年2月	3月	4月	5月	6月	7月
最高(円)	1,520	1,470	1,469	1,245	1,259	1,107
最低(円)	1,099	1,220	1,200	1,025	1,030	1,025

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼社長		辻 理	昭和17年3月7日生	昭和52年3月 サムコインターナショナル創業 昭和54年9月 当社設立、代表取締役社長 昭和61年6月 サムコエンジニアリング(株)設 立、代表取締役社長(現任) 平成26年10月 当社代表取締役会長兼社長(現 任)	(注)3	1,943
取締役	営業統括部長	石川 詞念夫	昭和32年6月20日生	昭和56年4月 当社入社 平成8年8月 当社東京営業部長 平成10年10月 当社取締役東京営業部長 平成16年9月 当社取締役営業本部長 平成20年11月 当社取締役営業部門統括部長 平成22年11月 当社取締役執行役員営業部門統括 部長 平成23年11月 当社取締役常務執行役員営業部門 統括部長 平成24年4月 当社取締役常務執行役員営業統括 部長 平成24年11月 当社取締役副社長執行役員営業統 括部長(現任)	(注)3	27
取締役	海外事業推進 兼新規事業担当	川邊 史	昭和49年12月7日生	平成11年4月 中部電力(株)入社 平成20年7月 当社入社 平成22年11月 当社執行役員オプトフィルムス研 究所部長 平成24年10月 当社取締役執行役員オプトフィル ムス研究所部長 平成26年10月 当社取締役執行役員海外事業推進 兼新規事業担当(現任)	(注)3	20
取締役	技術開発統括部 長 兼開発部長	山葉 隆久	昭和34年12月14日生	平成14年8月 ローム(株)入社 平成25年8月 当社入社 当社常務執行役員技術開発統括部 特別プロジェクト担当 平成26年3月 当社常務執行役員技術開発統括部 長兼開発部長 平成26年10月 当社取締役常務執行役員技術開発 統括部長兼開発部長(現任)	(注)3	10
取締役	管理統括部長 兼経理部長 兼経営企画室長	竹之内 聡一郎	昭和33年10月31日生	昭和56年4月 (株)三和銀行(現(株)三菱東京U FJ銀行)入社 平成24年8月 当社入社 平成24年9月 当社管理統括部長兼経理部長兼経 営企画室長 平成24年11月 当社執行役員管理統括部長兼経理 部長兼経営企画室長 平成26年10月 当社取締役執行役員管理統括部長 兼経理部長兼経営企画室長(現 任)	(注)3	3
取締役 (注)1	-	村上 正紀	昭和18年11月28日生	昭和46年4月 京都大学工学研究科研究員 昭和46年6月 米国カリフォルニア大学(UCL A)研究員 昭和50年2月 米国IBMワトソン中央研究所研 究員 昭和58年12月 米国IBMワトソン中央研究所薄 膜材料部門マネジャー 平成2年8月 京都大学工学部教授 平成8年4月 京都大学大学院工学研究科教授 平成19年3月 京都大学名誉教授(現任) 平成19年4月 学校法人立命館副総長(現任) 立命館大学グローバルイノベ ーション研究機構教授(現任) 平成26年10月 当社取締役(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役(常勤)		山田 史郎	昭和18年2月28日生	昭和50年3月 中野公認会計士事務所入社 昭和60年6月 当社入社 昭和61年9月 当社取締役総務部長 平成10年4月 当社取締役管理本部長兼経理部長 平成16年9月 当社取締役管理本部上席指導役 平成16年10月 当社監査役(現任)	(注)4	33
監査役(常勤)		辻村 茂	昭和27年3月10日生	昭和50年5月 (株)佐野家入社 平成3年4月 当社入社 平成18年1月 当社総務部長 平成23年11月 当社執行役員総務部長 平成24年10月 当社監査役(現任)	(注)4	8
監査役 (注)2		木村 隆之	昭和16年1月21日生	昭和41年4月 大阪ガス(株)入社 昭和62年10月 京都リサーチパーク(株)取締役 昭和63年5月 (株)サイエンスセンターインター ナショナル常務取締役 平成13年8月 シー・デザイン(株)代表取締役 (現任) 平成13年10月 当社監査役(現任)	(注)4	-
監査役 (注)2		小林 弘明	昭和17年3月4日生	昭和39年4月 東洋レーヨン(株)(現 東レ(株)) 入社 平成17年6月 東レ(株)代表取締役副社長兼技術 センター所長 平成19年6月 東レ(株)相談役 平成20年10月 当社監査役(現任) 平成21年6月 東レ(株)顧問(現任)	(注)4	1
計						2,047

- (注) 1. 取締役村上正紀は、社外取締役であります。
2. 監査役木村隆之及び小林弘明は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成26年7月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年7月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成24年7月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年7月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. サムコエンジニアリング(株)は、当社代表取締役会長兼社長辻理の資産管理会社であります。
6. 取締役川邊史は代表取締役会長兼社長辻理の子の配偶者であります。
7. 当社では、コーポレート・ガバナンスの重要性が高まるなか、経営の意思決定及び監督機能と業務執行機能を分離することで、役割・責任の明確化、経営・業務執行の迅速化を図るため執行役員制度を導入しております。なお、平成26年11月1日付の人事異動で、執行役員は以下の8名となる予定であります。

副社長執行役員(重任)	石川 詞念夫	(取締役 営業統括部長)
常務執行役員(重任)	山葉 隆久	(取締役 技術開発統括部長兼開発部長)
常務執行役員(昇格)	川邊 史	(取締役 海外事業推進兼新規事業担当)
執行役員(重任)	竹之内 聡一郎	(取締役 管理統括部長兼経理部長兼経営企画室長)
執行役員(重任)	久保川 泰彦	(営業技術部長)
執行役員(重任)	田口 裕之	(海外営業2部長)
執行役員(重任)	関 仲修	(社長室長)
執行役員(新任)	上田 泰照	(海外営業3部長)

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

#### イ. 企業統治の体制の概要

当社では、効率的で健全な企業経営システムを構築する上で、コーポレート・ガバナンスの確立は極めて重要な経営課題であると認識しており、常に組織の見直しと諸制度の整備に取り組んでおります。

- ・当社では、設立時からの7月決算を貫くことにより、参加しやすく開かれた株主総会を目指しております。
- ・当社では、取締役会は意思決定の迅速化と経営責任を明確化するため、月1回以上の開催を定例化し、法令で定められた事項及びその他経営に関する重要事項の決定を行うとともに、監査役の参加のもと、業務の執行状況の管理監督がなされております。
- ・当社の取締役は6名（うち1名は社外取締役）ですが、常に次世代を担う若手役員候補者を育成しながら、開かれた運営を基本としております。
- ・当社は、執行役員制度を導入しており、取締役の意思決定機能と執行役員の業務執行機能を明確にすることによって、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。
- ・当社は監査役制度を採用しております。監査役は4名のうち山田史郎氏、辻村茂氏が常勤監査役で残り2名は社外監査役であり、取締役の職務執行の適法性と妥当性をチェックし、公正な意見が発言できる仕組みを作り上げております。
- ・当社は、平成26年10月24日開催の定時株主総会において、会社法第427条第1項の規定に基づき、社外取締役及び社外監査役との間で同法第423条第1項の賠償責任を限定することを可能とする定款の変更を決議し、社外取締役及び社外監査役との間で責任限定契約を締結いたしました。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額であります。

#### ロ. 企業統治の体制を採用する理由

当社では、企業競争力強化を図り、スピーディーな経営の意思決定及び経営の透明性・合理性向上を目的としております。また、コンプライアンスは、コーポレート・ガバナンスの基本と認識しており、単に法令や社内ルールの遵守にとどまらず、社会倫理や道徳を尊重する企業風土作りに努めております。

従って、公正かつ健全な企業活動を促進し、コーポレート・ガバナンスの体制拡充を図るため、現状の体制を採用しております。

#### ハ. 内部統制システムとリスク管理体制の整備の状況

内部統制については、社長室の専任者1名が年間計画に基づく内部監査を実施して、内部牽制の実効性を高めております。社長室は、業務活動の全般に関し、その妥当性や有効性及び法規制・社内ルールの遵守状況等について定期的に監査を実施し、各部署に助言・勧告を行うとともに経営者に速やかに報告しております。リスク管理については、管理統括部内の総務部が窓口となって各部門から適宜報告を受けるとともに、コンプライアンスの監視、リスク・チェックの強化に取り組んでおります。顧問弁護士からはコーポレート・ガバナンス体制、法律面等についての公正かつ適切な助言、指導を受けております。今後も、経営内容の透明性を高め各ステークホルダーから信頼される企業を目指して、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図ってまいります。

なお、当社は、取締役、執行役員及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保する体制について、以下の体制を構築しております。

##### a. 取締役、執行役員及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・取締役、執行役員及び使用人が法令、定款及び社内規定を遵守し、誠実に実行し、業務遂行するために、取締役会は取締役、執行役員及び使用人を対象とする「企業倫理行動指針」「倫理規程」及び「コンプライアンス基本規程」を制定する。
- ・コンプライアンス全体を統括する組織として代表取締役社長を委員長とする「内部統制委員会」を設置し、内部統制システムの構築、維持、向上を推進する。
- ・コンプライアンスの推進については、コンプライアンス基本規程に基づき社長室にその業務の窓口を設置し、コンプライアンスの状況等について監査を実施し、定期的に取締役会及び監査役会にその結果を報告する。
- ・取締役、執行役員及び使用人が法令違反その他法令上疑義のある行為等を発見した場合には、適切に対応するため、社内における通報制度を構築し、運用する。
- ・社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、取引関係も含め一切の関係を持たないこととする。その不当要求に対しては、法令及び社内規定に則り毅然とした姿勢で組織的に対応する。

##### b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・取締役の職務の執行及び意思決定に係る記録や文書は、保存及び廃棄等の管理方法を法令及び文書管理規程に基づき、適切に管理し、関連規程は必要に応じて適宜見直しを図る。
- ・取締役、監査役及び会計監査人は、これらの情報及び文書を常時閲覧できる。

c. 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ・リスク管理規程を定め、同規程に従ったリスク管理体制を構築する。
- ・不測の事態が発生した場合には、代表取締役を本部長とする対策本部を総務部内に設置し、顧問弁護士等を含む外部アドバイザーの協力のもと、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整える。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・定例の取締役会を毎月1回開催し、経営方針及び経営戦略に係る重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行う。
- ・取締役会の機能をより強化し、経営効率を向上させるため、必要に応じて適宜臨時の取締役会を開催し、業務執行に関する基本事項及び重要事項に係る意思決定を機動的に行う。
- ・取締役会において、中期経営計画及び各事業年度予算を立案し事業目標を設定するとともに、その進捗状況を監督する。
- ・取締役会の決定に基づく業務執行については、「業務分掌規程」「職務権限規程」「稟議規程」「会議規程」において、職務の執行の責任及びその執行手続きが規定されており、効率的な職務執行を確保する。また各規程は必要に応じて適宜見直しを図る。

e. 会社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ・「関係会社管理規程」に基づいて関係会社を管理する体制を構築するとともに、それらの経営成績及び営業活動等を定期的に当社の取締役会に報告する体制を整備する。
- ・関係会社には、当社の役職者が役員として就任し、関係会社の業務の適正性を監視できる体制を整備する。
- ・当社の社長室は、関係会社に対し定期的な内部監査を行い、監査の結果は当社の代表取締役社長、監査役及び関係部署に報告する体制を整備する。

f. 監査役の職務を補助すべき使用人を置くことに関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

- ・現在、監査役の職務を補助すべき使用人はいないが、必要に応じて監査役の職務補助のための監査役スタッフを置くこととし、その人事については、取締役と監査役が協議を行うものとする。
- ・当該使用人の任命、異動については監査役会の事前の同意を得ることで取締役会からの独立性を確保する。

g. 取締役、執行役員及び使用人が監査役に報告するための体制、その他監査役への報告に関する事項

- ・取締役、執行役員及び使用人は会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見した時は、ただちに監査役に報告する。
- ・常勤監査役は、取締役会の他重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、内部統制委員会、経営会議等の重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役、執行役員または使用人にその説明を求めることが出来るものとする。

h. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

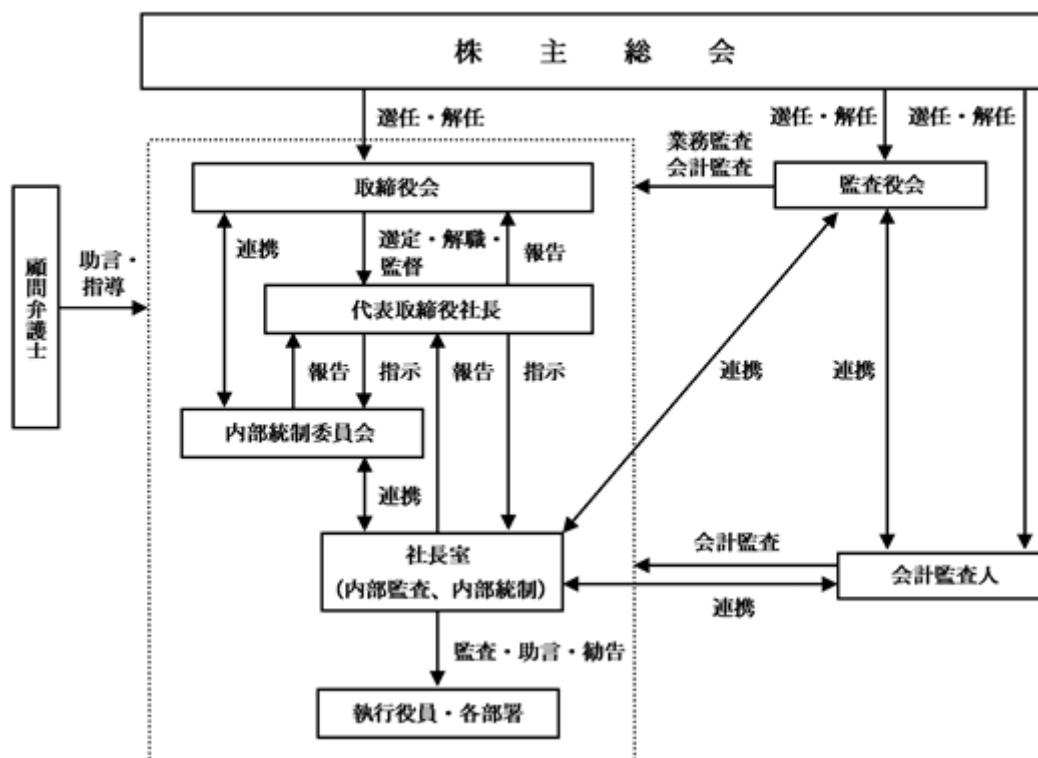
- ・監査役が代表取締役社長と定期的に会合を持ち、意見や情報交換を行える体制を構築する。
- ・監査役の職務執行にあたり、監査役が必要と認めるときには、当社の会計監査人から会計監査の内容について説明を受けるとともに、情報交換を行うなど連携を図っていくものとする。

i. 財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制

- ・金融商品取引法等が定める財務報告の信頼性を確保するために、財務報告に係る内部統制の体制の整備、運用、評価を継続的に行い、不備に対する必要な是正措置を講ずる。

業務執行と内部統制の仕組みについては、以下に示すとおりであります。

業務執行と内部統制図



#### 内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

社長室は、監査役と連携して社内各部門の業務執行状況について定期的な内部監査を行っております。

監査役は、取締役会に出席するほか、定例的に開催される重要な会議に出席し、経営監視の機能を果たしております。なお、常勤監査役山田史郎氏は、19年間当社の経理業務を担当しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

会計監査は、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結し、監査契約に基づき会計監査を受けております。会計監査人と監査役及び社長室は随時、監査の所見や関連情報の交換を行っております。業務を執行した公認会計士は、以下のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 西尾 方宏 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員 中島 久木 有限責任 あずさ監査法人

継続監査年数については、2名ともに7年以内であるため、記載を省略しております。

また、監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、その他2名であります。

#### 社外取締役及び社外監査役

従来より当社は、社外監査役2名を選任しておりましたが、経営の透明性の確保及びコーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るため、平成26年10月24日開催の定時株主総会において社外取締役1名を新たに選任いたしました。

社外取締役であります村上正紀氏は、京都大学教授及び学校法人立命館副総長として豊富な学識と幅広い見識を有しており、海外企業の研究分野で培った高度な経験を活かして、業務執行に対する一層の監督機能の強化を図って頂くため、新たに選任したものであります。

社外取締役と当社との間に取引関係はありませんが、同氏が名誉教授を務める京都大学との間には製品販売、共同研究等の取引関係があり、同氏が副総長を務める学校法人立命館との間には製品販売等の取引関係があります。なお、いずれも取引の規模・性質に照らして株主・投資者の判断に影響を及ぼすおそれはないと判断されることから、その概要の記載を省略いたします。

社外監査役であります木村隆之氏と当社との間に取引関係その他の利害関係はなく、当社は木村隆之氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。社外監査役の小林弘明氏と当社との間に取引関係はありませんが、同氏が顧問を務める東レ株式会社との間には製品販売等の取引関係があります。なお、取引の規模・性質に照らして株主・投資者の判断に影響を及ぼすおそれはないと判断されることから、その概要の記載を省略いたします。また、小林弘明氏は当社の株式1,200株を所有しております。

社外監査役は、会計監査人、社長室、常勤監査役とも定期的及び必要に応じて連携をとっており、財務諸表等の意見交換の機会を持ち、監査効率の向上に努めております。また、社外監査役は、高い独立性及び専門的な見地から、客観的かつ適切な監視、監督を行うことにより、当社の企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っていると考えております。

なお、当社は、社外役員を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、各々の専門分野や経営に関する豊富な知識、経験等に基づき、客観的または専門的な視点で監督及び監査といった機能、役割が期待され、一般株主と利益相反が生じる恐れがない者を選任しております。

#### 役員報酬等

##### イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	66,355	51,974	3,690	10,690	5
監査役 (社外監査役を除く。)	13,620	12,900	-	720	2
社外役員	4,800	4,800	-	-	2

##### ロ. 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

##### ハ. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

##### ニ. 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮して、取締役の報酬は取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

なお、平成19年10月26日開催の第28期定時株主総会での決議により、取締役の報酬額は年額150,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)、平成16年10月22日開催の第25期定時株主総会での決議により、監査役の報酬額は年額20,000千円以内となっております。

#### 株式の保有状況

##### イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

5銘柄 215,135千円

##### ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的 前事業年度

###### 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
(株)村田製作所	4,534.263	30,560	取引関係等の強化のため
(株)アドテックプラズマテクノロジー	60	8,160	取引関係等の強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	8,470	5,090	取引関係等の強化のため
(株)T&Dホールディングス	1,600	1,985	取引関係等の強化のため

#### 当事業年度

##### 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
(株)アドテックプラズマテクノロジー	6,000	157,620	取引関係等の強化のため
(株)村田製作所	5,013.433	49,743	取引関係等の強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	8,470	5,214	取引関係等の強化のため
(株)T&Dホールディングス	1,600	2,095	取引関係等の強化のため

八. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

**取締役の定数**

当社の取締役は7名以内とする旨を定款に定めております。

**取締役の選任の決議要件**

当社の取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

**中間配当**

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

**自己の株式の取得の決定機関**

当社は、機動的に自己株式の取得を行うことを目的として、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

**株主総会の特別決議要件**

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

**(2) 【監査報酬の内容等】**

**【監査公認会計士等に対する報酬の内容】**

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
15,000	-	15,000	5,156

**【その他重要な報酬の内容】**

該当事項はありません。

**【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】**

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

当社が監査公認会計士に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、「財務デューデリジェンス業務」であります。

**【監査報酬の決定方針】**

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定につきましては、当社の規模・特性及び監査公認会計士等の監査日数を勘案し、監査公認会計士等との協議及び監査役会の同意を経た上で決定しております。



## 第5【経理の状況】

### 1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年8月1日から平成26年7月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表について

連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社の子会社は、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	1.40%
売上高基準	0.51%
利益基準	0.17%
利益剰余金基準	4.06%

### 4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、公益財団法人財務会計基準機構及び監査法人等が主催するセミナーに参加しております。

1 【財務諸表等】  
(1) 【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,620,458	3,015,573
受取手形	131,498	184,748
売掛金	1,437,176	1,686,512
仕掛品	305,202	366,249
原材料及び貯蔵品	80,051	78,316
前払費用	5,827	7,665
繰延税金資産	31,105	32,548
未収消費税等	-	14,841
未収還付法人税等	294	5,025
その他	5,698	6,618
貸倒引当金	156	31,606
流動資産合計	5,617,157	5,366,492

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	877,089	877,524
減価償却累計額	533,591	562,169
建物(純額)	1 343,498	1 315,354
構築物	25,314	25,314
減価償却累計額	21,893	22,512
構築物(純額)	3,421	2,802
機械及び装置	553,606	559,279
減価償却累計額	496,880	529,375
機械及び装置(純額)	2 56,725	2 29,903
車両運搬具	44,427	42,954
減価償却累計額	38,991	33,948
車両運搬具(純額)	5,435	9,005
工具、器具及び備品	164,085	164,826
減価償却累計額	152,164	153,589
工具、器具及び備品(純額)	11,920	11,236
土地	1 2,530,836	1 2,530,836
リース資産	43,558	43,558
減価償却累計額	10,489	16,662
リース資産(純額)	33,068	26,896
建設仮勘定	-	113,973
有形固定資産合計	2,984,907	3,040,008
<b>無形固定資産</b>		
特許権	12,348	9,483
電話加入権	2,962	2,962
ソフトウェア	139	79
水道施設利用権	2,675	2,394
リース資産	1,361	340
無形固定資産合計	19,487	15,259
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	46,260	215,135
関係会社株式	20,080	40,254
出資金	5,000	5,000
長期貸付金	-	130,237
繰延税金資産	209,919	165,856
差入保証金	57,755	58,181
保険積立金	29,329	29,330
その他	1,083	904
投資その他の資産合計	369,427	644,900
<b>固定資産合計</b>	<b>3,373,822</b>	<b>3,700,169</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,990,979</b>	<b>9,066,662</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	272,088	366,953
短期借入金	1,800,000	1,800,000
1年内返済予定の長期借入金	1,39,996	1,16,685
リース債務	7,194	5,014
未払金	73,408	76,714
未払費用	30,916	33,629
未払法人税等	188,000	19,000
未払消費税等	29,737	-
預り金	25,008	25,751
賞与引当金	18,600	24,800
役員賞与引当金	4,722	3,690
製品保証引当金	18,100	20,300
その他	-	2,272
流動負債合計	1,507,771	1,394,810
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,16,685	-
リース債務	27,236	22,222
長期未払金	1,361	1,111
退職給付引当金	278,816	309,043
役員退職慰労引当金	321,046	332,456
固定負債合計	645,146	664,833
負債合計	2,152,917	2,059,644
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,213,787	1,213,787
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	1,629,587	1,629,587
資本剰余金合計	1,629,587	1,629,587
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	59,500	59,500
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	3,287,000	3,487,000
繰越利益剰余金	648,663	512,362
利益剰余金合計	3,995,163	4,058,862
自己株式	9,054	9,982
株主資本合計	6,829,483	6,892,254
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	8,578	114,763
評価・換算差額等合計	8,578	114,763
純資産合計	6,838,061	7,007,017
負債純資産合計	8,990,979	9,066,662

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)	当事業年度 (自 平成25年8月1日 至 平成26年7月31日)
売上高	4,201,393	4,233,049
売上原価		
製品期首たな卸高	5,839	-
当期製品製造原価	2,288,634	2,297,941
合計	2,294,474	2,297,941
製品売上原価	2,294,474	2,297,941
売上総利益	1,906,919	1,935,107
販売費及び一般管理費	1, 2 1,564,634	1, 2 1,678,667
営業利益	342,285	256,440
営業外収益		
受取利息	580	991
受取配当金	821	1,052
為替差益	244,779	45,627
特許実施許諾料	530	516
雑収入	3,294	2,194
営業外収益合計	250,007	50,381
営業外費用		
支払利息	8,048	6,788
株式上場費用	16,500	6,170
売上割引	2,840	1,311
雑損失	658	116
営業外費用合計	28,047	14,385
経常利益	564,245	292,436
税引前当期純利益	564,245	292,436
法人税、住民税及び事業税	235,499	118,034
法人税等調整額	25,757	15,924
法人税等合計	209,742	102,109
当期純利益	354,503	190,326

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)		当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	1,784,580	82.5	2,008,645	82.4
労務費		218,521	10.1	233,138	9.6
経費		160,560	7.4	194,340	8.0
当期総製造費用		2,163,662	100.0	2,436,123	100.0
期首仕掛品たな卸高		455,598		305,202	
合計		2,619,260		2,741,326	
期末仕掛品たな卸高		305,202		366,249	
他勘定振替高	2	25,423		77,135	
当期製品製造原価		2,288,634		2,297,941	

(注)

前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)																				
<p>当社の原価計算は、「原価計算基準」に準拠し、要素別、部門別に月別計算を行い、製品別計算では、個別原価計算法によって毎月次実際原価を計算しております。</p> <p>1 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>外注加工費</td> <td>113,611千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>17,361</td> </tr> </table> <p>2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>固定資産振替高</td> <td>10,345千円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>15,078</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25,423</td> </tr> </table>	外注加工費	113,611千円	減価償却費	17,361	固定資産振替高	10,345千円	研究開発費	15,078	計	25,423	<p>当社の原価計算は、「原価計算基準」に準拠し、要素別、部門別に月別計算を行い、製品別計算では、個別原価計算法によって毎月次実際原価を計算しております。</p> <p>1 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>外注加工費</td> <td>146,244千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>16,395</td> </tr> </table> <p>2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>固定資産振替高</td> <td>63,438千円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>13,696</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>77,135</td> </tr> </table>	外注加工費	146,244千円	減価償却費	16,395	固定資産振替高	63,438千円	研究開発費	13,696	計	77,135
外注加工費	113,611千円																				
減価償却費	17,361																				
固定資産振替高	10,345千円																				
研究開発費	15,078																				
計	25,423																				
外注加工費	146,244千円																				
減価償却費	16,395																				
固定資産振替高	63,438千円																				
研究開発費	13,696																				
計	77,135																				

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計		繰越利益剰余金	その他利益剰余金			
				別途積立金		繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,213,787	1,629,587	1,629,587	59,500	3,187,000	482,105	3,728,605	8,503	6,563,476
当期変動額									
剰余金の配当						87,944	87,944		87,944
別途積立金の積立					100,000	100,000	-		-
当期純利益						354,503	354,503		354,503
自己株式の取得								551	551
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	100,000	166,558	266,558	551	266,007
当期末残高	1,213,787	1,629,587	1,629,587	59,500	3,287,000	648,663	3,995,163	9,054	6,829,483

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,816	1,816	6,561,659
当期変動額			
剰余金の配当			87,944
別途積立金の積立			-
当期純利益			354,503
自己株式の取得			551
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	10,394	10,394	10,394
当期変動額合計	10,394	10,394	276,402
当期末残高	8,578	8,578	6,838,061

当事業年度（自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,213,787	1,629,587	1,629,587	59,500	3,287,000	648,663	3,995,163	9,054	6,829,483
当期変動額									
剰余金の配当						126,627	126,627		126,627
別途積立金の積立					200,000	200,000	-		-
当期純利益						190,326	190,326		190,326
自己株式の取得								928	928
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	200,000	136,301	63,698	928	62,770
当期末残高	1,213,787	1,629,587	1,629,587	59,500	3,487,000	512,362	4,058,862	9,982	6,892,254

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	8,578	8,578	6,838,061
当期変動額			
剰余金の配当			126,627
別途積立金の積立			-
当期純利益			190,326
自己株式の取得			928
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	106,184	106,184	106,184
当期変動額合計	106,184	106,184	168,955
当期末残高	114,763	114,763	7,007,017



## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)	当事業年度 (自 平成25年8月1日 至 平成26年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	564,245	292,436
減価償却費	109,425	81,338
受取利息及び受取配当金	1,402	2,043
支払利息	8,048	6,788
為替差損益（は益）	214,221	39,966
貸倒引当金の増減額（は減少）	45	31,449
賞与引当金の増減額（は減少）	2,500	6,200
役員賞与引当金の増減額（は減少）	436	1,032
製品保証引当金の増減額（は減少）	6,600	2,200
退職給付引当金の増減額（は減少）	22,256	30,227
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	3,971	11,410
売上債権の増減額（は増加）	451,468	302,585
たな卸資産の増減額（は増加）	162,940	59,311
仕入債務の増減額（は減少）	102,934	94,864
その他	35,304	41,746
小計	70,138	110,227
利息及び配当金の受取額	1,410	1,629
利息の支払額	8,020	6,756
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	727	290,340
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>64,255</b>	<b>185,239</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	2,757,744	2,789,067
定期預金の払戻による収入	2,740,594	2,776,356
投資有価証券の取得による支出	3,980	4,145
有形固定資産の取得による支出	24,541	129,883
関係会社株式の取得による支出	-	20,174
貸付けによる支出	-	133,549
その他	1,419	31
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>47,091</b>	<b>300,494</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	39,996	39,996
自己株式の取得による支出	551	928
配当金の支払額	87,944	126,627
その他	5,173	7,194
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>133,666</b>	<b>174,745</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	213,843	42,760
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	97,340	617,719
現金及び現金同等物の期首残高	1,767,712	1,865,052
現金及び現金同等物の期末残高	1,865,052	1,247,333

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

総平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・仕掛品

個別原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 原材料

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(付属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・構築物..... 4年~50年

機械及び装置..... 4年~20年

工具、器具及び備品..... 4年~20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(3年~5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、翌期の支給見込額のうち、当期に負担すべき金額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 製品保証引当金

製品の保証期間に基づく無償の補償支払に備えるため、過去の実績に基づいて計上しております。

(6) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、内規に基づく支給見込額を計上しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資によっております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## (会計方針の変更)

該当事項はありません。

## (表示方法の変更)

前事業年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「貸倒引当金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度のキャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた12,892千円は、「貸倒引当金の増減額」45千円、「その他」12,847千円として組み替えております。

前事業年度において、独立掲記していた「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「未払費用の増減額」、「前受金の増減額」及び「預り金の増減額」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度のキャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「未払費用の増減額」954千円、「前受金の増減額」52,906千円、「預り金の増減額」3,799千円は、「その他」として組み替えております。

## (貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及びこれらに対応する債務は、次のとおりであります。

## (1) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
建物	188,696千円	174,402千円
土地	2,343,424	2,343,424
計	2,532,120	2,517,827

## (2) 上記に対応する債務

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
短期借入金	500,000千円	500,000千円
1年内返済予定の長期借入金	39,996	16,685
長期借入金	16,685	-
計	556,681	516,685

2. 国庫補助金等によって取得した資産については国庫補助金等に相当する下記の金額を取得価額から控除しております。

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
機械及び装置	22,245千円	22,245千円

## (損益計算書関係)

## 1. 研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)
	192,805千円	162,218千円

## 2. 販売費及び一般管理費

販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度27%、当事業年度30%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度73%、当事業年度70%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)
旅費交通費	111,834千円	118,432千円
製品保証引当金繰入額	18,100	19,834
役員報酬	69,944	69,674
給料手当	554,111	591,059
賞与引当金繰入額	10,471	14,426
役員賞与引当金繰入額	4,722	3,690
法定福利費及び福利厚生費	127,980	149,133
退職給付費用	23,677	24,865
役員退職慰労引当金繰入額	11,346	11,410
賃借料	68,147	68,255
研究開発費	192,805	162,218
減価償却費	19,444	19,389
貸倒引当金繰入額	45	31,449
租税公課	37,978	34,838

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,042,881	-	-	7,042,881
合計	7,042,881	-	-	7,042,881
自己株式				
普通株式	7,284	712	-	7,996
合計	7,284	712	-	7,996

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加712株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(2) 配当金支払額

平成24年10月26日開催の第33期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- (イ) 配当金の総額 87,944千円
- (ロ) 1株当たりの配当金額 12円50銭
- (ハ) 基準日 平成24年7月31日
- (二) 効力発生日 平成24年10月29日

(3) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

平成25年10月25日開催の第34期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- (イ) 配当金の総額 126,627千円
- (ロ) 1株当たりの配当金額 18円00銭
- (ハ) 配当の原資 利益剰余金
- (二) 基準日 平成25年7月31日
- (ホ) 効力発生日 平成25年10月28日

当事業年度（自 平成25年 8 月 1 日 至 平成26年 7 月31日）

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,042,881	-	-	7,042,881
合計	7,042,881	-	-	7,042,881
自己株式				
普通株式	7,996	844	-	8,840
合計	7,996	844	-	8,840

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加844株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(2) 配当金支払額

平成25年10月25日開催の第34期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- (イ) 配当金の総額 126,627千円  
(ロ) 1株当たりの配当金額 18円00銭  
(ハ) 基準日 平成25年 7 月31日  
(ニ) 効力発生日 平成25年10月28日

(3) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

平成26年10月24日開催の第35期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- (イ) 配当金の総額 126,612千円  
(ロ) 1株当たりの配当金額 18円00銭  
(ハ) 配当の原資 利益剰余金  
(ニ) 基準日 平成26年 7 月31日  
(ホ) 効力発生日 平成26年10月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成24年 8 月 1 日 至 平成25年 7 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 8 月 1 日 至 平成26年 7 月31日)
現金及び預金勘定	3,620,458千円	3,015,573千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,755,405	1,768,239
現金及び現金同等物	1,865,052	1,247,333

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

機械及び装置、工具、器具及び備品並びにソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、半導体等電子部品製造装置の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容、そのリスク及び金融商品に係るリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しましては、取引先ごとに期日管理及び残高管理を実施しております。また、当社の海外取引の大部分は現状アジア向けで日本円建となっておりますが、欧米向けは米国ドル建であり、米国ドル建の営業債権は為替の変動リスクに晒されているため、為替予約等を活用して変動リスクを極小化できるよう常に為替動向を注視しております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されているため、定期的に時価の把握を行っております。

長期貸付金は、関係会社に対して実行しており、定期的に財務状況の把握を行っております。

営業債務である買掛金は、ほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に運転資金（短期）及び設備投資（長期）に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後5ヶ月で、長期借入金は固定金利であります。

これらは、流動性リスクに晒されておりますが、当社では月次での資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

前事業年度（平成25年7月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	3,620,458	3,620,458	-
(2) 受取手形	131,498	131,498	-
(3) 売掛金	1,437,176	1,437,176	-
(4) 投資有価証券	45,797	45,797	-
資産計	5,234,931	5,234,931	-
(1) 買掛金	272,088	272,088	-
(2) 短期借入金	800,000	800,000	-
(3) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	56,681	56,823	142
(4) 未払金	73,408	73,408	-
負債計	1,202,177	1,202,320	142

当事業年度（平成26年7月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	3,015,573	3,015,573	-
(2) 受取手形	184,748	184,748	-
(3) 売掛金	1,686,512	1,686,512	-
(4) 投資有価証券	214,672	214,672	-
(5) 長期貸付金	130,237	130,237	-
資産計	5,231,745	5,231,745	-
(1) 買掛金	366,953	366,953	-
(2) 短期借入金	800,000	800,000	-
(3) 1年内返済予定の長期借入金	16,685	16,685	-
(4) 未払金	76,714	76,714	-
負債計	1,260,352	1,260,352	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

時価については、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(5) 長期貸付金

時価については、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内返済予定の長期借入金、(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	前事業年度 （平成25年7月31日）	当事業年度 （平成26年7月31日）
非上場株式	463	463
関係会社株式	20,080	40,254

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、注記対象には含めておりません。



(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額  
 前事業年度(平成25年7月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,620,458	-	-	-
受取手形	131,498	-	-	-
売掛金	1,437,176	-	-	-
合計	5,189,134	-	-	-

当事業年度(平成26年7月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,015,573	-	-	-
受取手形	184,748	-	-	-
売掛金	1,686,512	-	-	-
長期貸付金	-	99,660	30,577	-
合計	4,886,835	99,660	30,577	-

(注4) 短期借入金及び長期借入金の決算日後の返済予定額  
 前事業年度(平成25年7月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	800,000	-	-	-	-	-
長期借入金	39,996	16,685	-	-	-	-
合計	839,996	16,685	-	-	-	-

当事業年度(平成26年7月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	800,000	-	-	-	-	-
長期借入金	16,685	-	-	-	-	-
合計	816,685	-	-	-	-	-

(有価証券関係)

1. 子会社株式

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式40,254千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式20,080千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

2. その他有価証券

前事業年度(平成25年7月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	43,811	30,329	13,482
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	43,811	30,329	13,482
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	1,985	2,160	174
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,985	2,160	174
合計		45,797	32,489	13,307

当事業年度(平成26年7月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	212,577	34,474	178,102
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	212,577	34,474	178,102
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	2,095	2,160	64
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,095	2,160	64
合計		214,672	36,634	178,037

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)

当社は、為替予約取引を行っておりますが、平成25年7月31日現在の取引残高はありません。

当事業年度(自 平成25年8月1日 至 平成26年7月31日)

当社は、為替予約取引を行っておりますが、平成26年7月31日現在の取引残高はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。なお、従業員の退職等に際しては、割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成25年7月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	278,816
(2) 退職給付引当金(千円)	278,816

(注) 当社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
(1) 勤務費用(千円)	33,974
(2) 退職給付費用(千円)	33,974

(注) 当社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社は、簡便法を採用しておりますので基礎率等について記載しておりません。

当事業年度(自 平成25年8月1日 至 平成26年7月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。なお、従業員の退職等に際しては、割増退職金を支払う場合があります。

なお、退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	278,816千円
退職給付費用	35,654
退職給付の支払額	5,427
退職給付引当金の期末残高	309,043

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

非積立型制度の退職給付債務	309,043
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	309,043

退職給付引当金	309,043
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	309,043

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 35,654千円

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	14,487千円	2,671千円
賞与引当金	7,053	8,813
製品保証引当金	6,863	7,214
退職給付引当金	99,303	109,834
役員退職慰労引当金	114,099	118,155
貸倒引当金	156	11,232
その他	3,807	3,934
繰延税金資産合計	245,772	261,856
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	4,729	63,274
その他	17	177
繰延税金負債合計	4,747	63,452
繰延税金資産の純額	241,024	198,404

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年7月31日)	当事業年度 (平成26年7月31日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	37.92%
(調整)		
住民税等均等割額		2.13
交際費等永久差異		1.52
試験研究費等税額特別控除		6.37
その他		0.28
税効果会計適用後の法人税等の負担率		34.92

## 3. 決算日後の法人税等の税率の変更

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課せられないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年8月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については、従来の37.92%から35.54%になります。

この税率変更による影響額は軽微であります。

## (持分法損益等)

前事業年度(自平成24年8月1日至平成25年7月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成25年8月1日至平成26年7月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)

当社は、半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)

当社は、半導体等電子部品製造装置の製造及び販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	CVD装置	エッチング装置	洗浄装置	その他装置	その他	合計
外部顧客への売上高	855,832	2,583,666	204,142	7,500	550,252	4,201,393

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	台湾	中国	北米	その他	合計
3,286,691	151,979	523,039	88,468	151,214	4,201,393

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎として、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
(株)金沢村田製作所	686,115	半導体等電子部品製造装置の製造及び販売

当事業年度（自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	CVD装置	エッチング装置	洗浄装置	その他装置	その他	合計
外部顧客への売上高	529,045	2,669,196	390,220	-	644,586	4,233,049

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	台湾	中国	北米	その他	合計
2,668,979	466,263	507,496	295,434	294,874	4,233,049

（注）売上高は顧客の所在地を基礎として、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、損益計算書の売上高の10%を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

前事業年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	samco-ucp AG	リヒテンシュタイン公国	1,050千スイスフラン	製造業	(所有)直接 90.0	当社製品の代理店 資金の援助	資金の貸付(注)1	133,549	長期貸付金	130,237
							利息の受取(注)1	436	その他流動資産	434

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)1. samco-ucp AGに対する資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。

2. 上記の取引金額には為替差損益は含まれておらず、期末残高には為替差損益が含まれておりません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)
1株当たり純資産額	972円02銭	996円15銭
1株当たり当期純利益金額	50円38銭	27円05銭

(注)1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)	当事業年度 (自 平成25年 8月 1日 至 平成26年 7月31日)
当期純利益金額(千円)	354,503	190,326
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	354,503	190,326
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,035	7,034

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		(株) アドテックプラズマテクノロジー	6,000	157,620
		(株) 村田製作所	5,013.433	49,743
		(株) 三菱UFJフィナンシャル・グループ	8,470	5,214
		その他(2銘柄)	1,620	2,558
		計	21,103.433	215,135

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	877,089	434	-	877,524	562,169	28,578	315,354
構築物	25,314	-	-	25,314	22,512	619	2,802
機械及び装置	553,606	5,673	-	559,279	529,375	32,495	29,903
車両運搬具	44,427	7,728	9,200	42,954	33,948	4,038	9,005
工具、器具及び備品	164,085	4,590	3,848	164,826	153,589	5,205	11,236
土地	2,530,836	-	-	2,530,836	-	-	2,530,836
リース資産	43,558	-	-	43,558	16,662	6,172	26,896
建設仮勘定	-	113,973	-	113,973	-	-	113,973
有形固定資産計	4,238,917	132,399	13,048	4,358,268	1,318,259	77,110	3,040,008
無形固定資産							
特許権	45,406	-	-	45,406	35,923	2,865	9,483
電話加入権	2,962	-	-	2,962	-	-	2,962
ソフトウェア	10,276	-	-	10,276	10,197	59	79
水道施設利用権	4,200	-	-	4,200	1,805	281	2,394
リース資産	5,106	-	-	5,106	4,765	1,021	340
無形固定資産計	67,952	-	-	67,952	52,692	4,227	15,259
長期前払費用	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当期増加額、減少額のうち主なものは次のとおりであります。

1. 建設仮勘定の増加内容

デモ実験用エッチング装置	60,965千円
デモ実験用MOCVD装置	53,008千円



## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	800,000	800,000	0.8	-
1年以内に返済予定の長期借入金	39,996	16,685	1.5	-
1年以内に返済予定のリース債務	7,194	5,014	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	16,685	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	27,236	22,222	-	平成27年～ 平成33年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	891,111	843,921	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	-	-	-	-
リース債務	4,040	4,040	4,040	4,040

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	156	31,606	-	156	31,606
賞与引当金	18,600	24,800	18,600	-	24,800
役員賞与引当金	4,722	3,690	4,722	-	3,690
製品保証引当金	18,100	20,300	17,634	465	20,300
役員退職慰労引当金	321,046	11,410	-	-	332,456

(注) 貸倒引当金及び製品保証引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。

## 【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,175
預金の種類	
当座預金	545,168
普通預金	65,276
定期預金	1,732,324
外貨預金	671,627
小計	3,014,397
合計	3,015,573

受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
MIT Lincoln Laboratory	118,622
パナソニック(株)AIS社	51,508
浜松ホトニクス(株)	2,818
アルバックテクノ(株)	2,216
(株)東栄科学産業	1,918
その他	7,663
合計	184,748

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成26年8月	127,541
9月	1,043
10月	53,240
11月	2,923
合計	184,748

売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日亜化学工業(株)	332,819
加賀東芝エレクトロニクス(株)	296,232
キャノン(株)	120,117
MIT Lincoln Laboratory	118,346
日機装(株)	96,336
その他	722,660
合計	1,686,512

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
1,437,176	4,501,041	4,251,705	1,686,512	71.6	126.7

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

仕掛品

品目	金額(千円)
CVD装置	129,334
エッチング装置	173,227
洗浄装置	52,196
その他	11,490
合計	366,249

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
真空部品	15,638
電気部品	7,927
機械加工	7,402
非金属(セラミック)	4,602
その他	42,744
合計	78,316

買掛金

相手先	金額(千円)
(株)アドテックプラズマテクノロジー	33,739
(株)巴商会	28,473
新光電気工業(株)	22,096
VAT(株)	21,884
内外テック(株)	20,646
その他	240,111
合計	366,953

短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	300,000
(株)みずほ銀行	200,000
(株)京都銀行	100,000
(株)三井住友銀行	100,000
(株)滋賀銀行	50,000
京都信用金庫	50,000
合計	800,000

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	598,052	2,032,401	2,749,272	4,233,049
税引前四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額(は損失)(千円)	100,639	160,460	99,009	292,436
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額(は損失)(千円)	67,868	102,614	60,538	190,326
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(は損失)(円)	9.64	14.58	8.60	27.05

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(は損失)(円)	9.64	24.23	5.98	18.45

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	毎決算期日の翌日から3ヶ月以内
基準日	7月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日 7月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.samco.co.jp/">http://www.samco.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 取得請求権付株式の取得を請求する権利
3. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第34期）（自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日）平成25年10月25日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成25年10月25日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第35期第1四半期）（自 平成25年8月1日 至 平成25年10月31日）平成25年12月11日近畿財務局長に提出

（第35期第2四半期）（自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日）平成26年3月12日近畿財務局長に提出

（第35期第3四半期）（自 平成26年2月1日 至 平成26年4月30日）平成26年6月9日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成25年10月28日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年10月24日

サムコ 株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西尾 方宏 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中島 久木 印

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサムコ 株式会社の平成25年8月1日から平成26年7月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サムコ株式会社の平成26年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サムコ 株式会社の平成26年7月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、サムコ 株式会社が平成26年7月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。